

2024(令和6)年度
事業計画書

2024年3月
学校法人 追手門学院

2024 年度の事業計画の策定にあたって

1888 年(明治 21 年)、大阪城に近接する現在の地に、元薩摩藩士である高島鞆之助によって創立された「大阪借
行社附属小学校」(現在の追手門学院小学校)が追手門学院の始まりです。追手門学院の教育理念は「独立自彊・社
会有為」。創立以来 130 年以上もの間、本学院はこの理念を継承し、伝統を重んじながら改革を続けてまいりました。
これもご関係の皆さまの多大なるご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

本学院では、将来のあるべき姿を明らかにした「長期構想 2040」の実現に向け、道半ばである 2030 年のアウトカム
や数値目標を示した「長期計画 2030」や、個別具体的な計画を示した「第Ⅳ期中期経営戦略」が定められています。
第Ⅳ期中期経営戦略は 6 年間にわたり展開され、2022 年度からの前半 3 年間に第 1 フェーズ、2025 年度からの後
半 3 年間に第 2 フェーズとして計画が策定されており、2024 年度は第 1 フェーズの最終年度であることから、第 2 フェ
ーズに向けての重要な年度であるといえます。

計画に基づき、追手門学院大学においては、2025 年 4 月の理工学部開設に向けて準備を進めています。これまで
の文系学部群に加え、新たに理系学部を新設し、全学的に教育内容の更なる充実を図ることで、より広い学びを提供
することが可能となります。さらに、茨木総持寺キャンパスにて建設中の大学Ⅱ期棟が 2024 年度中に竣工する予定
です。2025 年度を大学の「第二の開学」の年として迎えるべく、教育内容ならびに学習環境の魅力を最大限に発揮す
ることで、学院生の成長を導いていきます。

その他の第Ⅳ期中期経営戦略の各施策においても、順調に遂行されています。引き続き、キャンパスマスタープラ
ンの策定、教育 DX の促進等による、教育研究環境の整備や働き方改革等の施策を一層推進していき、第 2 フェーズ
に向け準備を進めてまいります。

2024 年度も革新的な技術やグローバルイベントによる社会環境の変化が予想されますが、追手門学院は、こども
園から大学院まで 1 万 2 千人を超える学院生が学ぶ総合学園として、「独立自彊・社会有為」の歴史ある教育理念の
もと、時代の変化に先駆けて、必要とされる教育内容、教育手法を取り入れていきます。

引き続き、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

学校法人 追手門学院
理事長 田口 順一

【 目 次 】

1. 追手門学院教育理念	3
2. 第Ⅳ期中期経営戦略概要	4
3. 各学校園のビジョン・KGI・中期計画・事業計画	8
(1) 追手門学院（法人部門）	
(2) 追手門学院大学	
(3) 追手門学院中・高等学校	
(4) 追手門学院大手前中・高等学校	
(5) 追手門学院小学校	
(6) 幼保連携型認定こども園 追手門学院幼稚園	
4. 収支予算の概要	19

1. 追手門学院教育理念

独立自彊・社会有為

追手門学院は、認定こども園から大学・大学院までの総合学園として、以下にあげる人物の養成を目標とし、地域社会、国家および国際社会において、指導的役割を果たしうる人間の育成をめざします。

- 確固たる個性をもち、自他の人格を尊重し、節度をわきまえ、社会の秩序と平安を乱す有形無形の暴力を排除する、勇気のある民主的人物
- 美的、倫理的価値に対し、鋭敏で健康な感受性をもち、真に自由な精神と強い意志をもった責任感のある人物
- 豊かな一般教養を身につけ、深く高い知識と思考力をもって、人文、社会ならびに自然の諸科学の正しい発展に寄与できる人物
- 日本の歴史、文化および芸術に対する深い造詣と、母語に見識をもつ豊かな表現力のある人物
- 国際的視野と国際的社会性、および地球的観点をもち、人類の繁栄に寄与し、社会に貢献することのできる人物

2.第Ⅳ期中期経営戦略概要

外部環境の変化が著しく、予測不能な時代において、教育業界を取り巻く環境も目まぐるしく変化しています。第Ⅳ期中期経営戦略は 2022 年から 2027 年を射程とした 6 年間の戦略であり、学校法人として 2027 年度までに目指すべきグランドビジョンを打ち出し、当該ビジョンにおける達成目標(法人 KGI:Key Goal Indicator)に向けて、5 つの戦略ドメインをもって取り組むことを定めています。

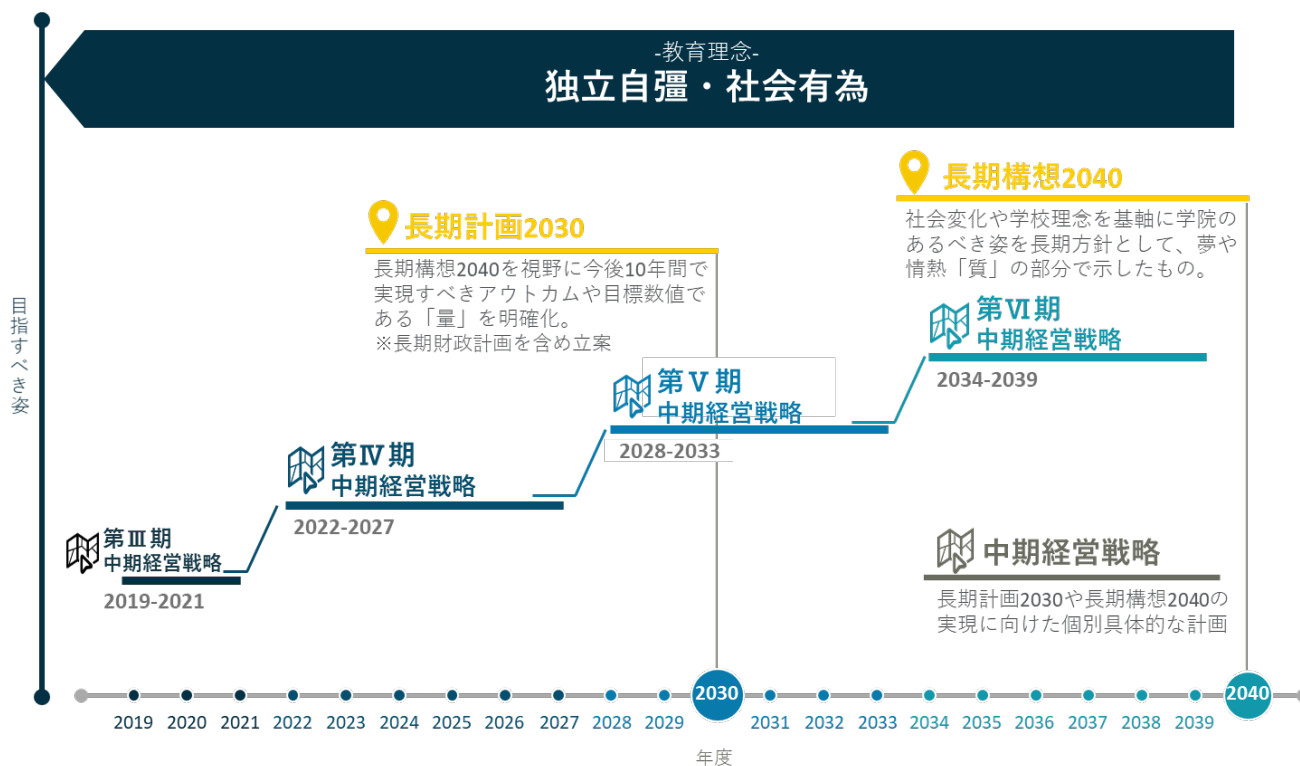
▶ 学校法人追手門学院 グランドビジョン

変わらない価値と新しい価値を融合した教育・研究を実践し、
個々の集結によってイノベーションを創出する総合学院

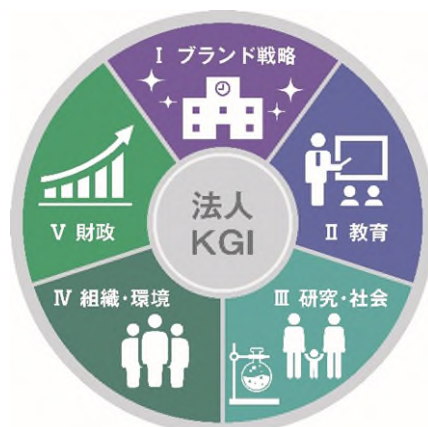
▶ 第Ⅳ期中期経営戦略における達成目標(法人 KGI)

- ① 満足度指標において、学生・保護者の総合満足度 80%以上
- ② 能動的活動(エンゲージメント)指標において、eNPS 値 30 ポイント向上(2021 年度比)
- ③ 事業活動収支差額比率 10%以上(寄付金等の経常的ではない収入、大規模投資を除く)

▶ 追手門学院経営戦略体系図



▶ 法人 KGIを達成するための 5 つの戦略ドメインと基本方針



I :ビジョン実現への礎となる総合学院としてのブランド戦略の確立

教育理念を学院内で深く浸透させ、相互理解を育むことにより、唯一無二の追手門ブランドを構築する。また予測不能な時代においても常に社会のニーズに応え、未来教育を提唱・実現し続けるイノベーション力を遺憾なく発揮することにより、選ばれるためのブランド力向上を図る。

- ① 総合学院としてのトータルブランド構築と戦略的認知度向上
 - ・学院経営基本方針の表明(総持寺キャンパス、改組、総合学院、etc.)
 - ・選択と集中による戦略的認知度向上
- ② OTEMON キャンパスマスタープランの策定と実現
 - ・総持寺メインキャンパス化に向けたⅡ期建設工事の遂行及びⅢ期計画の検討
 - ・文理を超えた総合大学化を視野に入れたキャンパス構想
 - ・デジタル社会の最先端を追求するためのインフラ整備
- ③ 文理を超えた総合大学の実現に向けた学部・大学院再編計画の策定
 - ・文系学部再編計画の策定と実施
 - ・理系学部の設置構想の策定と実施
 - ・大学院再編設置構想の策定と実施
- ④ 各校園における競争力強化と学校間の相互理解の深化
 - ・大学のリーディング企業就職率の向上
 - ・中学校・高校における進学実績の向上
 - ・小学校、こども園の個別最適な学びの展開
 - ・学校間の相互理解を深める内部広報の推進

Ⅱ：予測不能な時代を自ら切り拓く力を育む教育の展開

創立以来の伝統で培った「教育力」とデジタル技術を駆使した「新しい教育」の融合によって学びの質保証を図り、絶えず変化する世界に飲み込まれず自ら未来を切り拓きグローバルに活躍できる人材の育成を目指す。

- ① 時代の変化に適合した教育の実現と学修者本位の教育展開による学びの質向上【教育改革(大学・大学院)】
 - ・一人ひとりの成長を保証する学習成果の可視化
 - ・デジタル技術等を駆使した教育効果の最大化
 - ・教育の質保証に向けた IR 機能の強化及び体制整備
 - ・能動的に学び続ける素養を持ち合わせた受験生獲得に向けた入試制度改革及び募集広報強化
 - ・大学院の充実による教育研究の拡充
 - ・学生のキャリア実現と能動的な学びを支援する体制の強化
- ② 「個別最適な学びと協働的な学び」の実現【教育改革(園小中高)】
 - ・理想の将来像に繋がる第一志望実現に向けた重点入試指導
 - ・主体性を育む教育の展開と支援体制の確立
 - ・ICT の活用によるきめ細やかな指導体制の確立
 - ・個別最適化によるキャリア教育の提供
- ③ 質的向上に向けた選択と集中による国際化の推進【国際関係改革(大学)】
 - ・戦略的パートナーシップ構築による留学システムの質的向上
 - ・外国人留学生に対する多様な支援の実現
- ④ グローバル社会で活躍する人材の育成【国際関係改革(園小中高)】
- ⑤ 海外教育機関への進学実績の向上
 - ・ICT を活用した新たな国際交流の推進

Ⅲ：新たな知と価値を創造し持続的に研究成果を社会へ還元する仕組みづくり

地域のイノベーション拠点を目指し、研究活動を通じて得られた知見や成果を教育に還元していくとともに、リカレント教育をはじめ様々な取組を全学レベルで体系化し、地域社会のニーズに応じていく。

- ① 競争的研究費獲得に向けた研究基盤の充実
 - ・教育・研究イノベーションの先駆者たる次代を担う若手研究者の育成
 - ・外部研究資金・科研費獲得増加に向けた支援
 - ・分野を超えた知の集う研究プラットフォームの形成
- ② キャリアアップに資する実用的リカレント教育の提供
 - ・社会人向け学習プログラムの開発
- ③ 新価値創造につながる産学官連携の組織的推進
 - ・産業界(企業等)ニーズの把握及び研究リソースの分析
 - ・知的財産マネジメント体制の整備
 - ・ニーズとリソースのマッチングの仕組みづくり

IV:組織機能を最大化する環境整備

「時間と空間で働く」という既成概念を脱却し、新たな働き方のビジネスモデルのパラダイムシフトを加速させる。また、ICT 機器の急速な普及による雇用のボーダーレスに伴い多種多様な人材を雇用する体制を構築し、あらゆる知を集積させることでイノベーションを創出する。

- ① 未来の働き方を実現するイノベーション環境の実現
 - ・組織設計&人事設計の推進
 - ・事務分掌&業務分掌の見直しによる業務のスリム化
 - ・ICT 等を活用したフリーアドレスやテレワーク等の未来の働き方の実現
- ② 教育・研究活動の環境整備(大学)
 - ・学部設置計画と連携を図り、ST 比の改善を意識した教員の計画的採用
 - ・多種多様な働き方を可能とする制度の構築
 - ・ICT を活用したオンライン授業や Web 会議の推進

V:教育・研究を支える財政基盤の強化

安定した財政基盤の構築を図るための財政計画の立案を行うとともに教育を絶えず支えるための選択と集中を意識した中長期の財政戦略を策定する。攻め(成長投資)と守り(財務規律)の調和を図りながら学院の持続的な発展を目指す。

- ① 戦略的な財政基盤の強化
 - ・予算編成・執行管理・執行評価といった財務バリューチェーンの抜本的な見直し
 - ・目指すべき財務比率の目標を設定し、目標を達成するための予算制度の立案・実行
 - ・学院の事業活動収支差額比率 10%を実現するための中・長期財政計画の立案
- ② 外部資金の獲得を目指した収入の多様化
 - ・産学官連携の推進による外部研究費の獲得
 - ・コミュニケーション戦略のアウトカムとしての寄付獲得

法人、並びに各学校園は、5つの戦略ドメインを踏まえた「中期計画」を策定し、「学校法人追手門学院グランドビジョン」の実現を目指した取組を進めていきます。

3.各学校園のビジョン・KGI・中期計画・事業計画

(1) 追手門学院(法人部門)

ビジョン

変わらない価値と新しい価値を融合した教育・研究を実践し、
個々の集結によってイノベーションを創出する総合学院



OTEMON GAKUIN

KGI

- 満足度指標において、学生・保護者の総合満足度 80%以上
- 能動的活動(エンゲージメント)指標において、eNPS 値 30 ポイント向上(2021 年度比)
- 事業活動収支差額比率 10%以上
(寄付金等の経常的ではない収入、大規模投資を除く)

中期計画

① 長期計画 2030 の実現に向けた OTEMON キャンパスマスタープランの策定と実現へのコミットメント

長期計画 2030 実現に向けた学部設置計画との連携やコスト最適化に向けた大学キャンパスの将来構想や ICT リプレースを含む園小中高大の中長期施設整備計画を集約したキャンパスマスタープランを策定し、計画的に整備を行う。

<2024 年度の主な事業計画>

No	CSF 名	年度施策	ドメイン
1	OTEMON キャンパスマスタープランの策定と実現	- キャンパスマスタープラン素案確定 - キャンパスランニングコストの見直し - キャンパス移転に伴う事務組織と人事設計の策定	I ② V ①
42	革新的且つ戦略的な情報環境の構築及び ICT による教育研究支援	- 時代の変化に対応したセキュリティ対策の実施 - 総持寺 II 期棟のシステム及びネットワーク構築準備 - システムの活用促進や新規導入、リプレースの必要性の検討	I ② IV ②
43	図書資料の整備と図書利用環境の整備	- 学院全体での電子書籍の活用促進 - 大学における電子学術図書充実 - 図書館データベースの充実に向けたスクラップアンドビルド - 教育、研究用資料のデジタル化及び活用促進	I ② IV ②

② 長期計画 2030 を実現する学部設置計画の遂行へのコミットメント

収入増の観点からの計画として、長期計画 2030 に基づく学部設置計画を確実に実現し、経営水準の安定化にコミットする。

<2024 年度の主な事業計画>

No	CSF 名	年度施策	ドメイン
2	文理を超えた総合大学の実現に向けた学部・大学院の計画策定と遂行	- 学部設置計画改訂に基づく財政シミュレーションの実施 - 学部改組の検討と申請 - 新学部の設置検討と認可申請完了	I ③ V ①

③ 未来の働き方を実現するイノベーション環境整備

支出減の観点からの計画として、組織及び業務のスリム化に伴う人員数の適正化などを通じ、適正な人件費規模を実現する。また、キャリア選択や働き方の多様化により、eNPS 値 30 ポイント向上を実現する。

<2024 年度の主な事業計画>

No	CSF 名	年度施策	ドメイン
5	組織の持続的成長を支える組織設計	- 総持寺移管に伴う事務組織設計完了 - 事務組織改組に向けた規程整備完了 - O&C センターへの業務移管	IV① V①
6	成果を最大化させる人事トータルシステムの構築	- 新人事制度の課題修正・制度定着 - 戦略的な人事計画案策定 - 総持寺キャンパス全面移転に向けた人員配置案策定	IV① V①
7	多様なワークスタイルを支援する働きがいのある職場環境の実現	- 多様な働き方の定着 - 組織のイノベーションへと繋がる副業の可能性に関する検討 - 有休取得率向上に向けた有給休暇取得の促進	IV
25	初等中等部門教員の働き方改革推進と満足度の向上	- 新たに導入した教員評価制度の運用状況の検証と改善案検討 - 各校園の職場改善に向けた施策の実施・検証	IV①
3	エンゲージメント向上に向けたインナーブランディング	- 教職員の得意分野の可視化に向けた学院報や人事システムを活用した各種オウンドメディアとの連携	I④ IV①

④ 財政基盤の強化に向けた戦略的取組

収入増の観点からの計画として、コミュニケーション戦略のアウトカムとしての寄付獲得を進める。また、支出減の観点からの計画として、予算編成・執行管理・執行評価などを抜本的に見直す。

<2024 年度の主な事業計画>

No	CSF 名	年度施策	ドメイン
8	財務バリューチェーンの抜本的な見直し	- 財政計画の更新 - 新しい財務バリューチェーンの方針確立	V①
26	小中高における財政計画達成に向けた支援	- 小中高を対象とした予算策定手法の検証	V①

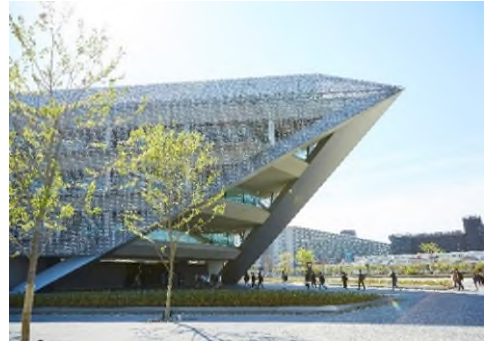
2. 追手門学院大学

ビジョン

教育と研究の新たな価値を創造し、生涯にわたって
能動的に学び続けるイノベーション人材を育成する大学・大学院

KGI

- 卒業時学生満足度 85%以上、且つ退学率5%以内
- 実就職率 90%以上、且つリーディング企業及び難関公務員就職占有率 10%以上
- 一般選抜実志願者数 15%以上アップ(2021 年度入試比)、且つ相対的な入試ポジションの向上



中期計画

① 入学者層の変化に対応した教育の質的向上

今後入学者層の多様化が予想されるなか、特に「学修習慣」と「学修意欲」を持ち合わせた入学者の質的かつ量的な拡充に対応するため、学生の多様な学修機会を確保しつつ、生涯にわたって学び続ける人材を育成するためのあらたな教育システム及び教育手法を構築・展開する。

<2024 年度の主な事業計画>

	No	CSF 名	年度施策	ドメイン
共通	12	“OIDAI DX”の活用による学修者層の変化に対応した教育環境の整備	- オンライン授業における LMS 利用率向上に向けた学生ポートフォリオの利用促進 - 統合プラットフォームの活用による LMS 利用率の維持	II ① IV ②
	51	OIDAI WIL & MATCH を活用した教育支援の取組	- 学生の主体的な参加を促す授業スタイルの継続的検討	II ①
	50	教育課程にかかる編成方針に沿った学修を活性化、効果的に行うための取組	- 成績評価・単位認定及び学位授与の適切な実施に向けた措置の検討 - 各学位課程の分野特性に応じた学修成果測定指標の検討 - 学位授与方針に明示された学生の学修成果および評価方法の把握・検討	II ①
	49	教育課程にかかる編成方針の点検および公表	- 学位授与方針の適切な設定と公表 - 教育課程の編成・実施方針の設定及び公表	II ①
	46	教学 IR の推進	- 各部門による IR を活用した施策の実施 - IR 活用方法のブラッシュアップ	II ①
	45	内部質保証システムの確立・推進	- 中期経営戦略に基づく内部保証システムのブラッシュアップ	II ①
学部・研究科	56	入学前教育の実施による学生の質保証	- 効果検証結果に基づく文学部独自プログラムの見直し - 入学生の学力向上に向けたフォロー体制構築	II ①
	58	入学前教育の実施による学生の質保証	- 効果検証結果に基づく国際学部独自プログラムの見直し - 入学生の学力向上に向けたフォロー体制構築	II ①
	62	WIL 型社会調査実習の展開	- 社会調査士資格関連科目において使用する統計ソフト等の運用開始 - 学外機関との連携による計量分析を取り入れた調査実習の実施	II ①

	63	訴求力ある教育課程と体系的カリキュラムの構築	- 教育プログラムの効果検証結果に基づく社会学部改革の検討	II①
	24	学外セクターと連携した WIL の更なる積極的な展開	- 地域創造学部独自の検定テスト実施による新カリキュラムへの教育効果検証 - 学部内共有コンテンツの内容及び発信手法の検証とブラッシュアップ - 学生による学外セクターとの接点機会創出を図る環境整備の実施 - 資格取得や明確なキャリアパスの提示による地域創造学部独自の進路選択支援	II②

② 能動的に学び続ける学生を育成し、さらに成長させるための支援体制強化

予測不能・予測困難な時代の中でも、卒業後も自ら考え行動し、生涯にわたって学び続ける人材を育成するための学生生活支援、海外留学を中心とした国際交流支援及び就職・資格取得を中心としたキャリア支援体制を構築・展開する。

<2024 年度の主な事業計画>

	No	CSF 名	年度施策	ドメイン
共通	14	時代に即した新しい学生支援・情報発信体制の構築	- ICT ツールを活用した学生による各種手続きのデジタル化・オンライン化の継続	II①
	53	学生の成長を支援する奨学金制度の検証とブラッシュアップ	- 新たに構築した奨学金制度の効果検証とブラッシュアップに向けた体制整備	II①
	11	多様な教育が展開できる教員体制	- 長期計画ならびに改組計画に基づく教員人事の見直しと採用	IV②
	48	教員及び教員組織の教育力向上	- 教員評価制度ならびに教育研究業績データベースの再構築検討	IV②
	47	教育研究組織の体制整備	- 研究組織を中心とした教育研究組織体制の整備とブラッシュアップ	IV②
	16	国際化の”フラッグシップモデル”の確立	- 中長期学部留学の参加率向上 - 「学部留学準備コース」および「TOEIC700 特訓コース」のカリキュラム改善と学部との協働による受講誘導	II③
	55	外国人留学生に対する多様な修学支援	- パートナー校が主催する現地入試説明会への参画	II
	54	理論から実践までの網羅的就職支援と業務検証による効果測定の実施	- 対象者種別の就職支援行事の展開 - IR 分析の実施 - 学部・機構会議での情報発信と学部担当制を通じた双方向の情報連携の継続的実施	II①
	15	難関公務員およびリーディング企業への就職実績を通じた社会的評価の向上	- 既存内定先企業群への就職斡旋強化を通じた比率向上策の継続 - 安定した公務員合格実績の確保 - 人工知能・認知科学専攻の就職先開拓と特定リーディング企業の学内イベント参画率向上	I④ II①
学部・研究科	17	ディプロマポリシー達成に向けた教育プログラムの開発・実施	- 卒業論文の評価指標策定と文学部 DP 教育評価プログラムの整備 - 学生の就職支援催事への参加を促進させる文学部関連企業に対する興味・関心の向上	II②
	57	学修計画の作成と実現へ向けての支援プログラム	- 学修計画書および学修実態に基づいた文学部独自の教育支援策の検討	II①
	18	ディプロマポリシー達成に向けた教育プログラムの開発・実施	- 国際学部独自の教育施策の実施 - 就職・キャリア支援課と連携した国際学部独自の就職支援体制整備	II②
	59	学修計画の作成と実現へ向けての支援プログラム	- 学修困難者への教育的支援策の実装と効果検証の実施	II①

19	主体的・継続的・計画的に自己の学修をマネジメントすることができる支援体制の構築	- 学修状況の分析や学修支援策の効果検証を踏まえた国際教養学部独自の支援プログラムの検討	II②
60	ディプロマポリシー達成に向けた教育プログラムの継続	- 卒業研究評価用のルーブリック策定および国際教養学部の DP 教育評価プログラムの構築 - 国際教養学部生の就職活動関連催事への参加率向上	II①
20	心理学の知識と社会とのインタラクションの確立	- 就職・キャリア支援課と連携した心理学部卒業生の情報共有体制の整備 - 人工知能・認知科学専攻学生の就職支援を目的とした内定先企業との関係構築	II②
21	学生の能動的学びの支援	- 就職試験結果に基づいた LMS の機能や運用方法のブラッシュアップ - 就職試験に向けた社会学部生の学修習慣の確立を図る環境整備の実施	II②
22	社会に訴求するスキルを備える経済学部生の育成	- 学修申告指標向上に向けた経済学部独自の学修支援の実施	II① III③
23	高い目標を掲げ、それを達成する実力ある学生の輩出	- 資格取得を目指す学生群の確立と資格取得の風土醸成 - 資格活用の職業として金融機関等での就業者を輩出することによる経済学部ロールモデルの形成	II①
66	地域で活躍する崇高な志を持った学生の育成	- 次世代の育成へと繋がる知識と実践力を活かした学生の成果発信体制の構築	II① III③
67	DX 時代に資する大学院教育プログラムの提供	- SAP 資格合格者の輩出と受講者の満足度の向上に向けたトライアルプログラムの実施	II① III②

③ 能動的に学び続ける素養を持ち合わせた受験生への認知度アップと獲得

2022 年度からスタートする高校新課程履修者を 2025 年度入試から迎えるにあたり、現状よりもさらに高いレベルの「学修習慣」を身につけ、且つ本学において学ぶ意識(学修意欲)の高い受験生を獲得するための募集戦略及び入試制度を構築・展開する。

<2024 年度の主な事業計画>

	No	CSF 名	年度施策	ドメイン
共通	13	本学のポジショニングアップに向けた入試戦略の構築	- 前年度入試データに基づく募集戦略の見直しと実行 - 選択と集中に特化した募集広告の実施	I① II①
	4	学生募集と連動したイメージ向上のための大学広報の展開	- 総持寺キャンパスⅡ期工事の進捗に合わせた HP コンテンツの作成とプロモーションの展開 - HP 全面リニューアルに向けた準備の完了	I①
	52	学生受け入れ方針に基づいた学生募集及び入学者選抜の実施	- 適切な入学者選抜制度や運営体制の整備による公正な入学者選抜の実施 - 合理的配慮に基づく公平な入学者選抜の実施	II①
学部・研究科	65	「追手門学院大学経営学部」のブランド力強化	- 来場者対応を完結することのできるオープンキャンパススタッフ体制の確立 - SNS を活用した魅力ある経営学部コンテンツの継続的発信と年次改善体制の構築	II①
	70	安定的な入学者数の確保	- 国際教養学専攻の新たな教育プログラムに即した規程改正の実施 - 新たな教育プログラムの広報に係わる媒体の活用	II①

④ 社会的・経済的価値を創造する研究・社会連携の推進

「第6期科学技術・イノベーション基本計画」に基づく、Society5.0の実現に向けた科学技術・イノベーション政策が展開される中、価値創造の源泉となる研究力の強化を図るため、研究推進基盤を整備するとともに、社会的・経済的価値につながる産官学連携・社会連携等新たな価値創造に取り組む。

<2024年度の主な事業計画>

	No	CSF名	年度施策	ドメイン
共通	9	研究推進基盤の高度化	- 競争的研究費獲得に向けた支援体制の確立	Ⅲ① Ⅴ②
	44	教育研究成果の社会還元による社会貢献	- 共同研究や受託研究のマッチング等による産学官連携事業の促進	Ⅲ③
	10	新価値創造につながる産学官連携の組織的推進	- 研究活動活性化に向けた産業界や官公庁と学内研究リソースとのマッチングの推進	Ⅲ③ Ⅴ②
学部・研究科	61	文理を超えた心理学部の研究・教育活動の促進	- 文理を超えた幅広い研究分野での研究会・講演会の実施 - 文理の枠組みを超えた研究成果の発信	Ⅱ① Ⅲ①
	64	WIL活動プログラムの展開による地域・社会連携の推進	- WIL該当活動や地域・社会連携活動を促す施策の実施	Ⅱ① Ⅲ③
	68	企業との連携による国際化、情報化をテーマとした学習プログラムの設定	- 大学院入試の出願へ繋げる受講者ニーズを捉えた公開講座プログラムの見直し	Ⅱ① Ⅲ②
	69	「おうてもん心理学」生涯健康福祉支援研究プログラムの構築・推進	- 実習協力施設との連携による新たな研究・教育課題の創出と研究外部資金の獲得	Ⅱ① Ⅲ①

3. 追手門学院中・高等学校

ビジョン

本校独自の個別・協働・プロジェクト型を融合した学びや探究プロジェクト型の学びを通して、生徒のキャリア発達と希望進路実現を促し、未来社会を築く基盤となる力を身につけた「人財」の育成を図る学校

KGI

- 教育を支える安定的財政基盤確立の為の志願者数確保
 - 中学:210名・高校(専願):200名・高校(併願):1,100名
 - 事業活動収支差額比率 7.5%(大規模修繕等の特有支出除く)
- 生徒の第一志望実現による難関国公立大学や海外大学への進学実績の向上
 - 難関国公立大を含む国公立大及び海外大学の合格者 100名・関関同立の合格者数 200名
- 生徒・保護者満足度(総合)80%以上



中期計画

① 安定的な志願者の確保につながるブランド力の向上

地域の中学校や塾との関係を強化、及び新たな広報活動に着手するとともに、本校独自の教育の推進のもと、進学実績の向上を図る。また本校独自の教育内容の魅力を広く発信し、社会的評価の向上を図る。

<2024年度の主な事業計画>

No	CSF名	年度施策	ドメイン
27	募集活動の充実	- 志願者数の確保を目的とした塾や教室との連携強化 - 公立中学校に対する積極的なアプローチ - SNSを活用したPRの実施	I④ V①
28	未来を見据えたコース制やカリキュラムの構築	- 広報媒体等を活用し探究授業ならびに創造コースの魅力や成果の発信 - 創造コースの募集定員増加	I④ II②

② 多様な進路選択のためのプログラムの構築

生徒の自己肯定力の向上を図る様々な取組を企画し、生徒個々に応じた多様な進路の実現を図る。

<2024年度の主な事業計画>

No	CSF名	年度施策	ドメイン
29	生徒の学習に対するモチベーションの向上	- 研修会実施による学校全体の授業力向上 - 学びの可視化と蓄積による生徒の学習習慣の定着 - 保護者の理解度や満足度向上に向けた情報共有の実施	I④ II②
30	個に応じた進路指導	- 国公立大学志向の定着 - 難関国公立大学合格を見据えた進路指導の実施	I④ II②

4. 追手門学院大手前中・高等学校

ビジョン

グローバルサイエンス教育の実践によって、生徒の「探究力」を育み、日々変革を遂げる社会に対応できる人材を輩出する名門校

KGI

- 安定的財政基盤確立のための志願者数確保
 - 中学: 240 名 高校(外部専願): 100 名 高校(併願): 200 名
 - 事業活動収支差額比率 7%(大規模修繕等の特有支出除く)
- 進学実績向上
 - 国立大学 30 名(難関国立大学合格 5 名を含む)・難関私立大学 80 名・海外大学 10 名の合格
- 保護者満足度(総合)80%以上



中期計画

① 教育の個別最適化による生徒の第一志望進路実現 100%の達成

「指導の個別化」と「学習の個性化」を基本に生徒の学力向上を図り、ICT 機器を効果的に活用することによって、一人一人の習熟度と目的に合わせた学びを実践し、生徒の進路実現を目指す。

<2024 年度の主な事業計画>

No	CSF 名	年度施策	ドメイン
31	自習体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> - 自習状況に関わるデータの収集・分析の実施と学内共有 - 自学自習の重要性や自習室の活用等に関わる広報施策の継続的实施 - 自習室運営方針の決定 - ICT 教材の利用状況整理と学内共有 - オンデマンド授業システムの確立とコンテンツの充実 	I ④ II ②
32	個別最適化を支える教員力の向上	<ul style="list-style-type: none"> - 教育力向上を目的とした研修の開催や研究プログラムの見直し - 研修計画のブラッシュアップ - オンデマンド研修システムの確立・稼働 	I ④ II ②

② グローバルコースにおける教育内容の確立

グローバルアカデミーコース、グローバルサイエンスコースの教育内容を確立し、基礎学力を備え、高い志を持ち、将来世界を幸せにするグローバル人材を育成する。

<2024 年度の主な事業計画>

No	CSF 名	年度施策	ドメイン
33	グローバルコースにおける教育内容の確立	<ul style="list-style-type: none"> - 海外に向けたアウトプットの質を高める手法の確立と学内共有 - 各種オリンピック情報の収集と教育活動への導入検討 - 中期または一年の独自留学プログラムのブラッシュアップ - 帰国子女枠の新設と公募開始 	I ④ II ④

③ 安定的な志願者の確保につながるブランド力の向上

グローバルコースなど探究を軸にした「他校にはない本校の特色教育」の推進や「SSHの指定」を受けることにより、独自のグローバルサイエンス教育を展開し、ブランド力を向上させることによって、質、量ともに安定した志願者を確保する。

<2024年度の主な事業計画>

No	CSF名	年度施策	ドメイン
34	学校コンピテンシーの具現化	<ul style="list-style-type: none">- VR/ARコンテンツの本格稼働開始- 連携候補となる大学や機関のリスト更新とアプローチの継続- GAGSコースの取組内容を他コースへ波及- 各教科における探究型授業の実践力向上- SSH申請に向けた課題発見	I④ II② V①

5. 追手門学院小学校

ビジョン

建学の礎として、人格形成を第一義としつつ、最先端の教育環境による「革新」をも備えたゆるぎない伝統校

KGI

- 保護者満足度(総合)80%以上
- 安定的財政基盤確立の為の志願者数確保 180名以上
 - 事業活動収支差額比率 7%(大規模修繕等の特有支出除く)



中期計画

① 次代が求める高水準の教育の展開

STEAM教育や英語教育の充実を図ると同時に、21世紀型スキル育成を目指したPBLの展開を行うなど、次代で求められる高水準の新教育を推進する。

<2024年度の主な事業計画>

No	CSF名	年度施策	ドメイン
35	ICT教育の実践強化	<ul style="list-style-type: none"> - 姉妹校との交流行事を通じた授業内容の検討 - ICTを活用したPBLの研修授業の実施 - AI教材を活用したカリキュラムの試験的实施 - プログラミング学習の公開授業の実施 	I ④ II ② V ①

② グローバル教育の推進

国際交流を基軸とした国際教育の推進とICTを活用した新しい交流を構築する。最先端企業や国際機関などへの研修視察などを通してグローバルレベルの思考や夢を育成する教育を展開する。国際基準に準拠したカリキュラム構成と学力評価体制を備えた英語教育を推進する。

<2024年度の主な事業計画>

No	CSF名	年度施策	ドメイン
36	国際教育拠点の構築	<ul style="list-style-type: none"> - 姉妹校の様子やトピックスなどの情報発信 - 最先端企業見学やSTEAM教育体験旅行の定着 - 国際教育に関する公開セミナーや講演会の実施 	I ④ II ④

③ 「志の教育」の具現化

変化の時代にあっても今も変わらぬ追手門教育の柱である「志」の教育を具現化し、礼儀や礼節、規律を保った行動を身につけさせるプログラムを展開することで、他校にはないバリューを保持する。

<2024年度の主な事業計画>

No	CSF名	年度施策	ドメイン
37	伝統の継承と時代に即した教育の融合	<ul style="list-style-type: none"> - 卒業生による講和の実施 - 児童が憧憬する人材による講演会等の実施 - 礼儀礼節自己評価表の活用開始 - 生活実態調査の継続と専門家による授業や講演会の実施 - 子どもサポート委員会の各週開催 	I ④ II ②

6. 幼保連携型認定こども園追手門学院幼稚園

ビジョン

園児一人ひとりの成長を確かな形で保護者が実感することのできる、園児の主体性を伸ばす教育保育を実践することも園

KGI

保護者満足度(保護者推薦度)80%以上

年少新入園児定員充足率 100%

中期計画

① 園児の主体性を育む教育保育の展開

次世代のイノベーション人材育成を目的に、子どもたち自身で選択・決定するプロセスを日常保育や行事に組み込み主体性の伸長を図る。そのために必要な保育環境の整備を進めるとともに、効果的に ICT ツールとして活用する。同時に、子どもたちの自信や自己肯定感を高めるとともに、非認知能力が向上するよう支援を行う。

<2024 年度の主な事業計画>

No	CSF 名	年度施策	ドメイン
39	主体性伸長のためのカリキュラム改編	- 適正化されたカリキュラムへの改編 - 園児の主体的活動機会の増大	I ④ II ②
38	保育環境の整備・充実	- 自然と触れ合う楽しみを創出する園庭改修の実施 - 保育室の改修 - 遊びスペースの増設完了	I ④ II ②

② 積極的な情報発信の推進

保護者満足度の向上および新規入園者層の安定的な獲得のために、在園児保護者に対しては子どもたちの成長記録や保育の様子を、ICT を活用し定期的に提供する仕組みを構築、また未就園児保護者に対しては園の特長を主に HP を活用して発信し、プレスクールにあら組や子育て支援事業フォーキッズへの入会・参加を促す。

<2024 年度の主な事業計画>

No	CSF 名	年度施策	ドメイン
40	教育保育の可視化および保護者との共有	- 教育保育の可視化及び保護者との共有を可能とする新システムのブラッシュアップ	I ④ II ②
41	未就園児保護者層へのコンタクト強化	- ホームページの継続的強化 - 新たな来園機会の増大	I ④



4.収支予算の概要

主な事業計画（1）

法人・大学

(単位：百万円)

事業名	事業概要	当初予算
総持寺キャンパスⅡ期棟工事および整備	2025年4月の稼働開始を目指し、2022年度から2024年度にかけて総持寺キャンパスⅡ期計画工事を実施している。今年度は計画3年目にあたり、工事進捗に応じた代金の支払いを行う。また、総持寺Ⅱ期棟の研究室、ラウンジ、インベーション空間等に設置する什器、電話/無人受付システムの整備を行う。	9,444
理工学部開設に伴う施設および機器備品等の整備	2025年4月の理工学部開設にあわせて、教育研究上必要な施設および機器備品等の整備を行う。	842
総持寺キャンパスⅠ期棟システムリリース	総持寺キャンパスⅠ期棟のネットワーク機器について、導入後より6年目を迎えたことで、老朽化による故障のリスクが高まっている。そのため、再設計を行ったうえで、当該システムの後継となるネットワークを構築する。	312

中・高等学校

(単位：百万円)

事業名	事業概要	当初予算
ティーチャーステーション、ネットワーク改修	将来に亘る様々な教室配当に対応できるように、ティーチャーステーションに可動扉を設ける改修工事を行う。ネットワーク改修を行い、同時接続数、通信速度の改善・安定化を図る。	66
広報DX・ホームページ改修	デジタル広告から出願までをトータルで運用する広報DXを軸に、受験者層の傾向を踏まえたホームページ刷新を行い、志願者の更なる確保と入学率の向上を図る。	9

主な事業計画（2）

大手前中・高等学校

(単位：百万円)

事業名	事業概要	当初予算
教員PC環境整備	教員用PCについて、老朽化による故障のリスクが高まっていることを踏まえ、PCの更新、ネットワークのセキュリティ対応を行う。	10
自習室運営	教育の個別最適化による生徒の第一志望進路実現100%の達成を目指して2021年度より導入した自学自習プロジェクトを継続し、生徒の自学自習を支えるサポート体制の充実を図る。	5

小学校

(単位：百万円)

事業名	事業概要	当初予算
計画修繕	教育環境の向上と四棟の校舎の長寿命化のため、計画的・効率的な施設設備の改修を実施する。	22
デジタル教科書の本格的導入と、それに伴う設備・機器の増強	文部科学省による2024年度からのデジタル教科書の本格的導入に伴い、ICTの拡充並びに機器の更新を行う。	12

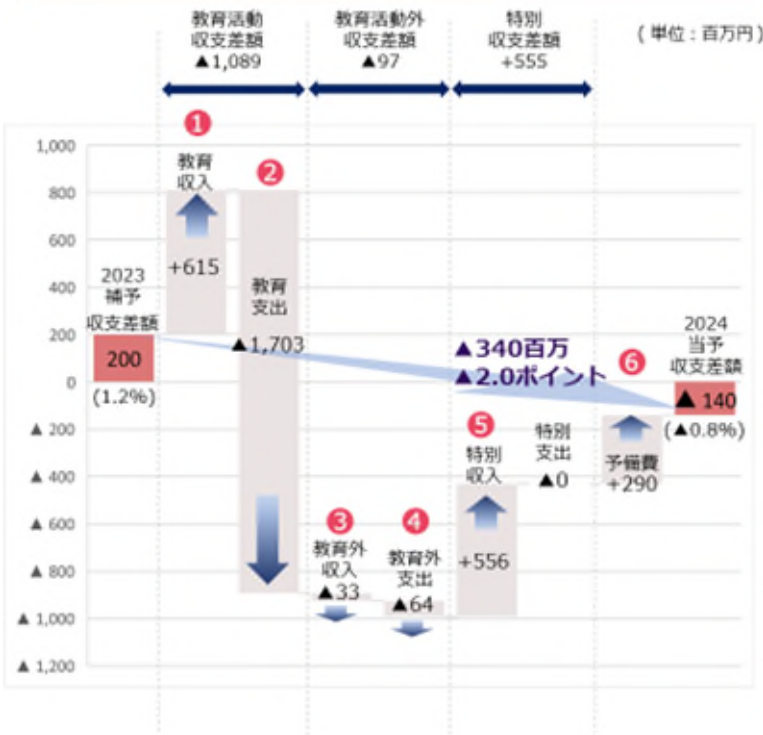
幼稚園

(単位：百万円)

事業名	事業概要	当初予算
園庭づくり（Ⅱ期）	園の保育環境のメインを構成する園庭について、抜本的な改修を行う。園児の興味や関心を刺激し、園児が自発的に遊びに向かい遊びに没頭できる要素を園庭に組み込むことで、園児の主体性を育む教育保育を推進し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が自然に育まれることを目指す。	6
HPリニューアル	選ばれる園であり続けるために、未就園児保護者層に対する本園の認知度向上を図る。その一環として、ホームページの大規模リニューアルおよびコンセプトブックの導入を行う。	3

事業活動収支予算書サマリー

基本金組入前当年度収支差額の前年度比較



Comment

- 教育活動収入 +615百万円**
 ① 学生生徒納付金 +369百万円
 ・大学における文学部定員増、法学部新設の年次進行、2021年度教育充実費全学部徴収の年次進行等により約350百万円
 ② 経常費等補助金 +183百万円
 ・大阪府私立高校等授業料無償化制度の改正による授業料支援補助金の増加等による
- 教育活動支出 +1,703百万円(利益は減)**
 ③ 人件費 +524百万円
 ・理工学部教員増に伴う職員人件費増、大学教員増及び基準コマ数の変更(6→5コマ)に伴う教員人件費増による
 ④ 教育研究経費 +864百万円
 ・Ⅱ期棟建設に伴う什器・ネットワーク整備等に伴う支払手数料・報酬、消耗品費等の増 795百万円、Ⅰ期棟のネットワークアドレスに伴う支払手数料・報酬等の増 312百万円、修繕計画見直しなどによる修繕費の減 ▲147百万円
- 教育活動外収入 ▲33百万円**
 ⑤ 受取利息・配当金 ▲33百万円
 ・資産運用規模の縮小による
- 教育活動外支出 +64百万円(利益は減)**
 ⑥ 借入金等利息 64百万円
 ・Ⅱ期棟建設に伴う借入額の増加による
- 特別収入 +556百万円**
 ⑦ その他の特別収入 556百万円
 ・大学・高専成長分野転換支援基金助成金による
- 予備費 ▲290百万円(利益は増)**
 ・前年度予備費で計上したシステム企画推進課の業務委託費について計上していないこと等による

事業活動収支予算書 (教育活動収支・教育活動外収支)

(単位：百万円)

科目	2024年度	2023年度	差異
	当初予算	補正予算	
事業活動収入の部			
学生生徒等納付金	12,458	12,089	369 ①
手数料	485	466	19
寄付金	259	282	▲22
経常費等補助金	3,171	2,988	183 ②
付随事業収入	147	159	▲13
雑収入	179	101	79 ③
教育活動収入計	16,700	16,085	615
事業活動支出の部			
人件費	7,151	6,627	524 ④
(内 退職給与引当金繰入額)	(181)	(114)	(67)
(内 役員退職給与引当金繰入額)	(6)	(13)	(▲7)
教育研究経費	8,131	7,266	864 ⑤
(内 減価償却額)	(1,189)	(1,301)	(▲112)
管理経費	1,952	1,638	315 ⑥
(内 減価償却額)	(145)	(153)	(▲8)
徴収不能額等	0	0	0
教育活動支出計	17,234	15,531	1,703
教育活動収支差額	▲535	554	▲1,089
教育活動外収入			
受取利息・配当金	51	83	▲33 ⑦
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計	51	83	▲33
教育活動外支出			
借入金等利息	76	12	64 ⑧
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	76	12	64
教育活動外収支差額	▲25	71	▲97
経常収支差額	▲560	625	▲1,185

教育活動収支増減について

- ① 学生生徒等納付金 +369百万円**
 【大学】2024年度 文学部定員増、2023年度 法学部新設の年次進行での学生数の増加により約350百万円、2021年度 教育充実費全学部徴収の年次進行により約50百万円
 【高校】学生数増加と大阪府私立高校等授業料無償化制度の改正による授業料の減少の差引き ▲31百万円
 【大手前高】大阪府私立高校等授業料無償化制度の改正による授業料の減少 ▲55百万円
- ② 経常費等補助金 +183百万円**
 【法人】大学・高専成長分野転換支援基金助成金 ▲43百万円
 ※ その他の特別収入として大学・高専成長分野転換支援基金助成金 560百万円
 【高校】145百万円 【大手前高】57百万円
 大阪府私立高校等授業料無償化制度の改正による授業料支援補助金等の増加
- ③ 雑収入 +79百万円**
 【大学】私立大学退職金財団交付金対象者(3名→4名) 46百万円
 【法人】退職金財団交付金対象者(0名→1名) 15百万円
 【大手前】退職金財団交付金対象者(0名→1名) 15百万円
- ④ 人件費 +524百万円**
 【法人】理工学部の教員増等(10名)に伴う職員人件費増 123百万円
 【大学】教員数増(13名)及び基準コマ数変更(6→5コマ)等に伴う教員人件費増 206百万円
- ⑤ 教育研究経費 +864百万円**
 【法人・大学】Ⅱ期棟建設に伴う什器やネットワーク整備等に伴う支払手数料・報酬や消耗品等の増 795百万円
 【大学】Ⅰ期棟のネットワークアドレスに伴う支払手数料・報酬等の増 312百万円
 【全体】修繕計画見直しなどによる修繕費の減 ▲147百万円
- ⑥ 管理経費 +315百万円**
 【法人・大学】Ⅱ期棟建設に伴う什器やネットワーク整備等に伴う支払手数料・報酬や消耗品等の増 134百万円、Ⅱ期棟稼働に伴う光熱水費の増 47百万円、O&Cセンターへの業務委託費増 124百万円

教育活動外収支増減について

- ⑦ 受取利息・配当金 ▲33百万円**
 【大学】資産運用規模の縮小による減少 ▲33百万円
- ⑧ 借入金等利息 ▲64百万円**
 【大学】Ⅱ期棟建設に伴う借入額の増加による(借入収入：2023年度50億円、2024年度30億円)

事業活動収支予算書（特別収支・基本金等）

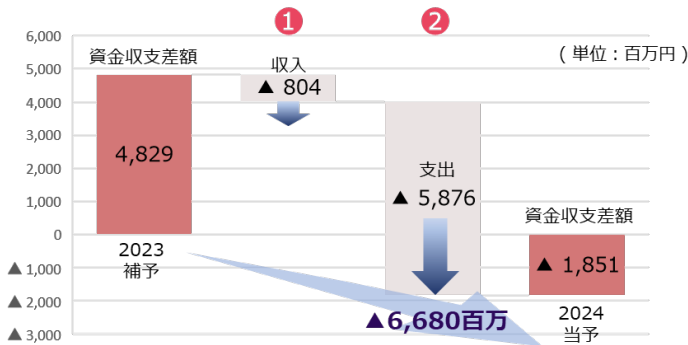
（単位：百万円）

特別収支	科目	2024年度 当初予算	2023年度 補正予算	差異
	事業収入	資産売却収入	0	0
	資産売却差額	60	60	0
	その他の特別収入	560	4	556 ①
	特別収入計	620	64	556
事業支出	科目	当初予算	補正予算	差異
	資産処分差額	50	50	0
	その他の特別支出	0	0	0
	特別支出計	50	50	0
	特別収支差額	570	14	555
	〔予備費〕	150	440	▲290 ②
	基本金組入前当年度収支差額	▲140	200	▲340 ③
	基本金組入額合計	▲6,373	▲927	▲5,445 ④
	当年度収支差額	▲6,513	▲728	▲5,785
	前年度繰越収支差額	▲12,856	▲12,130	▲726
	基本金取崩額	2	1	1
	翌年度繰越収支差額	▲19,367	▲12,856	▲6,511
	（参考）			
	事業活動収入計	17,370	16,232	1,138
	事業活動支出計	17,511	16,033	1,478
	基本金組入前当年度収支差額(再掲)	▲140	200	▲340
	事業活動収支差額比率	▲0.8%	1.2%	▲2.0% ⑤

特別収支増減について
① その他の特別収入 +556百万 【大学】大学・高専成長分野転換支援基金助成金 560百万円
基本金等増減について
② 予備費 ▲290百万円減 【大学】前年度計上したシステム企画推進課の業務委託費増見合い331百万円を当年度は予備費としては計上していないこと等による
③ 基本金組入前当年度収支差額 ▲340百万円減 【全体】当年度の収支バランスを表す基本金組入前当年度収支差額は前年度▲340百万円減の▲140百万円となった。
④ 基本金組入額合計 ▲5,445百万円減（組入額は増） 1号基本金組入額 6,373百万円を計上 ※2号基本金からの振替分除く 【法人/大学】 ・総持寺キャンパスⅡ期計画に係る支出 4,619百万円 ※借入に伴う未組入3,000百万円差引分を含む ・理工学部設置に伴う備品や1号館の改修等 805百万円 ・長期借入金返済に伴う過年度未組入れに係る組入れ 794百万円 等
事業活動収支差額比率について
⑤ 事業活動収支差額比率 ▲0.8ポイント 【全体】経営指標とされる事業活動収支差額比率は前年度補正予算比 2.0ポイント減の▲0.8%となった

資金収支予算書サマリー

資金収支差額(支払資金の増減額)の前年度比較



支払資金の期中増減額の前年度比較

（単位：百万円）

	23補予	24当予	当予-補正
前年度繰越支払資金（期首残）	7,879	12,708	4,829
① 収入の部小計	30,065	29,261	▲804
② 支出の部小計	25,235	31,111	5,876
収入-支出=資金収支差額	4,829	▲1,851	▲6,680
翌年度繰越支払資金（期末残）	12,708	10,857	▲1,851

Comment

① 収入の部小計 ▲804百万円

借入金等収入 ▲2,000百万円

・総持寺キャンパスⅡ期工事に係る借入 ▲2,000百万円
(5,000百万円 → 3,000百万円)

その他の収入 +466百万円

・総持寺キャンパスⅡ期計画に係る第2号基本金引当特定資産取崩収入 ▲3,199百万円 (4,095百万円 → 896百万円)

・施設設備引当特定資産取崩収入 +3,704百万円
特定資産(資産運用分)を総持寺キャンパスⅡ期計画支払いのために取り崩すことによる 3,500百万円
総持寺キャンパスⅠ期棟ネットワークリース 312百万円など

学生生徒等納付金 +369百万円

・大学における文学部収容定員増、法学部新設の年次進行、教育充実費全学部徴収の年次進行等による

② 支出の部小計 +5,876百万円（資金は減）

施設関係支出 +3,807百万円

・総持寺キャンパスⅡ期計画に係る支出 3,558百万円

・理工学部設置に係る支出 226百万円

設備関係支出 +1,439百万円

・総持寺キャンパスⅡ期計画に係る支出 863百万円

・理工学部設置に係る支出 579百万円

資金収支予算書（収入の部）

（単位：百万円）

収入の部			
科目	2024年度 当初予算	2023年度 補正予算	差異
学生生徒等納付金収入	12,458	12,089	369 ①
手数料収入	485	466	19
寄付金収入	250	278	▲28
補助金収入	3,731	2,988	743 ②
資産売却収入	513	514	▲1
付随事業・収益事業収入	147	159	▲13
受取利息・配当金収入	51	83	▲33 ③
雑収入	179	101	79 ④
借入金等収入	3,000	5,000	▲2,000 ⑤
前受金収入	2,118	1,892	226
その他の収入	8,914	8,448	466 ⑥
資金収入調整勘定	▲2,584	▲1,953	▲631 ⑦
収入の部小計	29,261	30,065	▲804
前年度繰越支払資金	12,708	7,879	4,829
収入の部合計	41,968	37,943	4,025

収入増減について

- ① 学生生徒等納付金収入 +369百万円** 事業活動収支予算書同様
- ② 補助金収入 +743百万円**
経常費等補助金 183百万円、その他の特別収入（大学・高専成長分野転換支援基金助成金に係る施設設備補助金 560百万円）
- ③ 受取利息・配当金収入 ▲33百万円** 事業活動収支予算書同様
- ④ 雑収入 +79百万円** 事業活動収支予算書同様
- ⑤ 借入金等収入 ▲2,000百万円**
【大学】総持寺キャンパスⅡ期工事に係る借入
▲2,000百万円（5,000百万円 → 3,000百万円）
- ⑥ その他の収入 +466百万円**
【大学】総持寺キャンパスⅡ期計画に係る第2号基本金引当特定資産取崩収入 ▲3,199百万円（4,095百万円 → 896百万円）

施設設備引当特定資産取崩収入：+3,704百万円
【大学】特定資産（資産運用分）を総持寺キャンパスⅡ期計画支払いのために取り崩すため 3,500百万円
【大学】総持寺キャンパスⅠ期棟ネットワークケーブル 312百万円
- ⑦ 資金収入調整勘定 ▲631百万円（マイナス調整額が増加）**
【法人】大学・高専成長分野転換支援基金助成金による期末未収入金が増加 ▲517百万円（▲43百万円 → ▲560百万円）

資金収支予算書（支出の部）

（単位：百万円）

支出の部			
科目	2024年度 当初予算	2023年度 補正予算	差異
人件費支出	7,174	6,609	565 ①
（内、退職金支出）	(210)	(109)	(101)
教育研究経費支出	6,941	5,965	976 ②
管理経費支出	1,807	1,484	323 ③
借入金等利息支出	76	12	64
借入金等返済支出	794	411	383 ④
施設関係支出	8,117	4,309	3,807 ⑤
設備関係支出	1,538	100	1,439 ⑥
資産運用支出	1,101	2,716	▲1,615 ⑦
その他の支出	3,940	3,866	75
〔予備費〕	400	440	▲40
資金支出調整勘定	▲778	▲676	▲102
支出の部小計	31,111	25,235	5,876
翌年度繰越支払資金	10,857	12,708	▲1,851
支出の部合計	41,968	37,943	4,025
資金収支差額 （収入の部小計－支出の部小計）	▲1,851	4,829	▲6,680

支出増減について

- ① 人件費 +565百万円（内、退職金支出 +101百万円）**
【大学】退職者に対する退職金支出（4名→5名）：72百万円
【大手前】退職者に対する退職金支出（0名→1名）：32百万円
- ② 教育研究経費 +976百万円** 事業活動収支予算書同様
- ③ 管理経費 +323百万円** 事業活動収支予算書同様
- ④ 借入金等返済支出 +383百万円**
【大学】総持寺キャンパスⅡ期計画に係る借入に伴う支出 383百万円
- ⑤ 施設関係支出 +3,807百万円**
【法人/大学】総持寺キャンパスⅡ期計画 3,558百万円
【法人/大学】理工学部開設に係る支出 226百万円
- ⑥ 設備関係支出 +1,439百万円**
【法人/大学】総持寺キャンパスⅡ期計画 863百万円
【法人/大学】理工学部設置に係る支出 579百万円
- ⑦ 資産運用支出 ▲1,615百万円**
【大学】資金（支払資金と特定資産）の減少を踏まえて、前年度実施した1,500百万円の繰入を実施しないこと等による減 ▲1,546百万円